

# 【小施策評価(令和元年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紀 修 内線 7330
小施策	17-4	教職員研修の充実	評価 シート 作成者	吉田 尚 内線 7332

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
学校の教育課題は年々複雑・多様化していることから、職能・経験年数や教育課題に応じた幅広い研修を実施し、教職員の資質や指導力の向上を図る必要がある。		日々の教育実践に必要な教職専門職としての研修を行い、教職員の資質や指導力の向上に努め、教育の質的向上を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
教員		誠実公正でかつ指導力が向上されている。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 教育研究所公開講座参加者数	人	→	当初値 (H25) 602		R1目標値 400
			R6目標値 400		
			<p>・令和元年度から、夏季のみ年1回の開催としたが、目標値を上回る参加を得ることができた。</p> <p>・公開講座と研究発表大会、市内学校公開研究会のうち、必ず1回は参加するよう学校へ呼びかけを行ったことが考えられる。</p>		
<p>・夏期休業中の開催では、中学校の運動部の東北大会や高校体験入学等が重なることによる負担感についての声が聞かれた。</p>			<p>・授業力向上研修や教育課程説明会といった、県や教育事務所の研修との重複もあることから、中学校に限らず小学校の教諭にとっても参加に対する負担感は大いなものと思われる。</p>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>		
指標② 公開講座参加者の満足度	人	→	当初値 (H25) 99.7		R1目標値 100.0
			R6目標値 100.0		
			<p>・参加者アンケートでは、満足度は高い(4段階評価のうち3と4が多く、平均3.76)。</p> <p>・公開講座の内容を、参加者アンケートによる教員のニーズを反映したものにすることが考えられる。</p>		
<p>・ここ数年と比較すると、満足度は下がっている。</p> <p>・開催期日や受講環境が満足度における課題が見られた。</p>			<p>・満足度を数値のみで把握することは難しく、詳細な満足感や要望の把握ができていないことが考えられる。</p> <p>・参加者アンケートから1年間が経過することから、タイムリーな講座内容になり得ていないことが考えられる。</p>		
<p>問題点</p>			<p>問題の要因分析</p>		

## 今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
<p>★ 今般のコロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は人数、講座数共に縮小して開催する。</p> <p>★ 岩手県立総合教育センターの研修、授業力改善研修、教育課程説明会、学校行事等の開催期日や内容、実施の有無(コロナ禍)等について確認しながら、開催する。</p>	
<p>★ 従来の講座に加え、時宜を得たテーマを取り入れて開催する。 ・学習指導要領の改訂・小学校プログラミング教育に係る講座 道徳科に係る講座 ・今日的課題・幼・保・小接続 教育相談に係る講座 自殺予防に係る講座</p> <p>☆1 従来の講座に加え、時宜を得たテーマを取り入れて開催する。 ・国の施策・ICT教育に係る講座(GIGAスクール構想) ・緊急時対応・遠隔授業に係る講座 休業時における学習の在り方</p>	